

クラス会（14 クラス会）

全国のクラス会のご紹介です。毎年たくさんのクラス会が催され、ご寄稿いただいています。紙面の都合上、写真は1枚、原稿は800字までとさせていただきます。何卒ご協力のほどお願い致します。

1 異郷で篤き友情のつどい クラス会 林学科 S40 年卒クラス会

林学科 13 回生（S40 卒）は、毎年道府県持ち回りでクラス会を開催しているが、本年は現在ベトナムに在住する小沢君の手を煩わせて同地で開催することになった。

3 月 13 日、夫人同伴の 1 カプルを含む 6 名が羽田に集結して、7 泊 8 日の海外クラス会がスタートした。小沢君はホーチミン在住のため同市周辺を訪ねる日程が組まれ、まずベトナム戦争当時解放戦線の拠点であったクチの戦場跡へ。地下に掘りめぐらされた 250km にも及ぶトンネルや巧妙な落とし穴などに紛れもない戦地の臨場感が漂い、駐車場や土産品店などが整備されて欧米からの観光客も多く、まるでテーマパークのようだった。

戦争証跡博物館では、枯れ葉剤散布後の立ち枯れて荒涼とした戦場や肢体の不自由な子供たちの写真などに戦争の悲惨さとむごたらしさを思い知らされ、その後訪れた孤児院では今なお枯れ葉剤の影響が残る母体から生まれた幼児たちの異様な姿に言葉を失った。被爆敗戦国からこの国に来て、戦争という行為の空しさと平和の尊さを改めて悟られた 3 箇所の見学であった。

一方、南シナ海に面した小さなリゾート地ムイネーで 2 泊した。そこでは今もタライ舟漁が行われており、早朝浜辺に帰るや、その場で鮮魚が即売される光景が珍しかった。買い求めた魚介で夜はシーサイドパーティ。半世紀を遡って船生演習林の合宿の再現は、飲み食べ唄って盛り上がり、束の間だ気分が若返った。そのほか南国の果物や珍しい料理に舌鼓を打ち、砂漠や溪流を歩くなどの体験もした。垣間見たベトナムは、各地でビルや地下鉄工事が進み、街中はモーターバイクが溢れ返って、発展途上国の活力を見せ付けられた思いだ。

異郷での 1 週間は、変わらぬ篤い友情と堅い絆を互いに確認しあって、心に残る 1 ページとなった。企画から設営、案内とすべて取り仕切ってくれた小沢夫妻に感謝。今回は海外開催のため諸般の事情から参加を見合わせた仲間が多かったが、在住道府県一巡となる来年の茨城開催では、多くの参加を望みたい。

（河口記）

参加者：小沢征夫夫妻、河口浚、田中康一、辻利正、野田正宣、能登洋治夫妻



2 農学科昭和 47 年卒クラス会 クラス会

2015 年 9 月 27 日、農学科 47 年卒クラス会が伊豆河津温泉郷 ファミリー&リゾート川ばたで開催されました。直前に起こった関東・東北豪雨で被災した者も駆けつけ、6 組の夫婦を含む 17 名の参加を得、盛大な会になりました。源泉かけ流しの宿は貸し切り状態で美味しい料理と相まって、皆大満足でした。ほぼ全員が第一線を引退しまだ元気ではあるものの、寄る年波には勝てず共通の病気や老後の生活を話題に大いに盛り上がりました。皆抱える悩みは同じということに安堵しました。翌日は地元の名勝河津七滝（ななだる）に行き、次回の群馬での再開を約して解散しました。

上野正樹



3 被災地「相馬」に集う クラス会 農学科昭和 42 年卒クラス会

平成 27 年 10 月 17 日午後 3 時、相馬中村城趾に集合し、相馬野馬追い総大将が出陣する城趾内を散策。その後、海岸に移動し、集落が消えた海岸に震災の記録を伝える「伝承鎮魂記念館」さらに松川浦湾口に 200 人ほどの太公望が並ぶ秋サケ釣りを見て、岩子「清風荘」にて 11 名でのクラス会となりました。

和風旅館での椅子テーブルは我々の年代を考慮した備えと感心するとともに、本来なら地元の魚づくしの料理も試験操業の魚種と三陸産でしたが十分に堪能できました。

翌朝 5 時、有志 3 人は秋サケ釣りへ、釣果は両隣が釣ったのを見たそうですが、豪快な気分だけは味わったようです。

散会后、栃木の 3 人は近くの太平洋を望む鹿狼山（430 m）で 1 時間半のハイクを楽しみました。

最近の当クラス会は 26 年 6 月播州相生市（10 名）、24 年 10 月鬼怒川（20 名）とミニクラス会の様相になってきております。

次回は 70 歳到達を祝い、宇都宮で開催を約束し散会しました。

常磐道は開通したものの、アクセスが不自由な地での開催でしたが天候に恵まれ、被災の復興状況なども見ていただき幹事としては及第点です。

これからも福島の商品のご愛顧と福島へお出かけをお願いすると共にさらなる福島への応援をよろしくお願い致します。(幹事 只野)

前列：湯本 松本 宇井 鈴木

後列：猪瀬 橋本 藤平 合田 只野 小林



4 農学科第4回生(昭31年卒) 卒業還暦記念・結びの同級会

平成28年5月19～20日、宇都宮市内ホテルニューイタヤで標記の同級会を開催した。高齢者同士の気力・体力・健康面を考慮し、集合しやすい母校所在地で結びの会とする。前年の栃木県内在住者の準備会での決定による。

学友38名中、物故者は14名で、2年前の塩原での同級会後、畏友3名を失った。存命24名だが参加者は8名だった。県外から本多重夫(岡山)、小林祐造(須坂)の2名。県内は杉田勇治、田村嘉應、津久井恭夫、名塚史雄、幹事役の富田頼夫、尾田治徳の6名。全員が再会を喜び合った。

会運営は一人一役で、分担して進化した。懇親会の冒頭で故畏友のご冥福を祈り、その後は近況報告と多様な話題で賑わった。続く雑話会では幹事が用意した卒業アルバムからの学友38名の肖像コピーと実施一覧、『峰ヶ丘会報』所載記事を資料に、学友・恩師の思い出、エピソードなど、時空を遡って回想にひたった。散会時には、自愛して新しい生きがいを見つけようと誓った。

引継ぎの詳細記録が残る隔年毎の同級会は、すべて夫人同伴であった。平成4年の福島・穴原に始まり、定山溪、鹿教湯(卒業40周年)、塩原、秋保、伊香保、那須、軽井沢(同50周年)、千葉・白子、鬼怒川、会津、東山、塩原、今回の宇都宮(同60周年)での結びの会まで連続13回。4半世紀にわたる、忘れ得ぬ和やかで有意義な集いだった。



写真左から

(前列) 小林・津久井・本多・杉田

(後列) 尾田・田村・富田・名塚

記念すべき結びの会には、残念だが夫人同伴はなかった。しかし、毎回参会いただいた田村令夫人は、心がこもった自家製「柚子マーマレード」瓶詰を、参会者全員のために用意くださった。ありがたい気配りに深謝申しあげる。

永年にわたる隔年毎の夫人同伴同級会開催は、歴代幹事・学友間の強い絆と熱意による。なお、令夫人方のご理解と配慮に敬意と感謝の極みである。謹んで故畏友を偲び、ご冥福を祈る。農学科第4回学友諸氏と令夫人、峰ヶ丘同窓会の弥栄を記念して、同級会結びの報告にする。

文責 尾田治徳 —2016・5・28—

5 農経13回(昭和40年卒) 同窓会開催

クラス会

前回3年前の長野県での開催について、今回は北陸新幹線が開通した富山県で平成27年9月29日から10月1日の3日間19名が参加し開催した。

富山県庁の要職を務め、県内を熟知した地元の上江君が幹事の企画、立案での実施のため、全てに行き届き参加者全員、大いに満足したところです。

初日は「とやま自遊館」での宿泊・宴会場で、近況報告や旧交を温め、校歌などで盛り上がり、二次会に流れ、時の経つのを忘れ飲み、かつ談論に夜が更けた。

2日目は天気も良く、バスでの栃波散居村を展望する「夢の平」に、実はここから今回幹事の上江君の家が見えるということで、一同感心しきりでした。

その後、五箇山合掌の里で「こきりこ」の踊りを鑑賞しながらの昼食、泊りは九殿浜の温泉、この日の宴会は昨日の疲れもあったが、飲む程に、富士の山海の料理を堪能しつつ、盛り上がった。まだまだ皆元気な様子であった。

次回は、北海道への新幹線も開通する2年後に大江戸君達北海道在住者が幹事となり開催することを決定し、お互いに健康に留意し再会出来ることを楽しみに帰路についた。(花塚 功先 記)



6 農業経済学科第16回 (昭和43年3月卒業) 同級会

クラス会

平成27年10月15日～17日の3日間、岐阜市・白川郷・高山市を会場に、19名の参加を得て、同窓会を開催した。

今回の幹事は、岐阜市在住の星野君。一人で切り盛りし大変だったと思いますが、気配り・目配りのきいた心温まる同級会となった。星野君、幹事役、ご苦勞様でした。そして有難うございました。

初日、岐阜市長良川河畔での篝火の下で、鵜飼い漁をみながらの夕食会。今年の鵜飼いはこの日が最終日のため、締めくくりの打ち上げ花火まで、既に亡い3人の同級生を偲びながら、飲み・食べそして喋る懇親会となった。その後、ホテルに戻り二次会が延々と続いた。

2日目は、金華山城を見て、貸切バスで白川・白山スーパー林道の真っ盛りの紅葉を愛で、白川郷の奇祭〈どぶろく祭り〉に参加した。どぶろくに酔いしれさらに高山の宿での楽しい大宴会と続いていった。

翌朝、2年後の再会を約束し、名残を惜しみながら散会した。次回は2017年、川俣君・猪狩君が幹事となり、宮城県で行うことに決定しました。お二方よろしくお願いいたします。皆さん是非参加してください。

楽しいですよ！ (田村 宏志 記)

今回の出席者＝19名(敬称略)

五十嵐・猪狩・板橋・上野・岡田 邦之・川俣・桐生・小平・佐藤 史彦・田村・中島・中田・中村・星野＝幹事 堀越・松澤・山本・渡辺 武夫・渡辺 公彦(うち五十嵐と小平は夫婦参加)



7 畜産学科第17回生[昭和44年(1969年)3月卒]同級会報告

私も昭和44年畜産学科卒は入学時29名、4年次に1年先輩の佐藤氏が海外研修から帰国し卒業時は30名であった。卒業後、平成27年まで、不定期に同級会を開催してきた。ここ3年間は鹿児島県、札幌、清里とそれぞれの地域在住者が幹事となり郷土料理に舌鼓をうちながら旧交を温めてきた。

今回幹事代表となった多田君が一昨年より国際学部で聴講生として宇大に週1回通いだし、修復なった旧講堂で飲食を行う会合開催が可能との情報を仕入れてきて同級会を旧講堂で開催すべく準備を始めた。という経緯で平成27年(2015)年10月に入学後50周年をも記念し、同級会を同窓会事務局の協力を得、当時の一般教養科目の憲法、経済等を受講した旧講堂で開催した。

当日の出席者は9名であった。会場には「島村・家畜生理学」など私たちの勉学を助けてくれた図書類、卒業写真集、畜産学科機関紙、「まきば」のバックナンバー、成績証、学生証、人工授精師受講証明書などが展示され、開会前にそれぞれに懐かしく手に取り眺めた。

同級生の物故者は4名、さらに迷惑を掛けた先生方も長

嶋先生を除き全て鬼箱に入っており、開会に先立ち、恩師、同級生物故者に追悼の黙とうを捧げた。その後、多忙な中を出席していただいた杉田学部長より大学の現状、方向性等についての説明を兼ねた挨拶を頂き、若干の質疑応答の後、杉田学部長を囲み記念写真を撮った。杉田学部長退席後、懇親に移り生協より取り寄せた料理、宇大産焼酎などを嗜みながら学生時代の思い出を肴に懇親、各自の現況報告をしてお開きとした。

同級会終了後、有志で旧畜産学科の研究者巡りをし、現役学生の勤勉さと私どもの研究室生活に隔世の感を抱き、さらに当時の卒論が保管されていることに驚きつつ散会した。

最後に、今回お世話・協力・ご配慮していただいた杉田学部長ならびに同窓会事務局の多田さんにお礼申し上げます。(文責 四十万谷)



前列左から：多田、加茂、松永、杉田学部長、宇田、田中、細田

後列左から：四十万谷、市村、渡辺浩治

8 農芸化学科16回生(昭和43年3月卒)クラス会 クラス会報告

平成27年11月18・19・20日

年々盛り上がる傾向の我がクラス会は北海道・台湾と二年連続で遠方が続きましたので今回は東京開催となりました。実は恩師藤沢徹名誉教授がめでたく卒寿を御迎えになられましたので我がクラスでもお祝いするという大義名分がありました。

第一日目は、東京会場で新宿中村屋のレストラン「グランナ」で和やかな祝賀会ムードの大宴会を行いました。田中秀幸・渡嘉敷義浩・加藤好武の各名誉教授から恩師への祝辞があり、さらに次回白寿の会での再会を約束しました。第二日目は、横浜会場で横浜中華街の本場中国料理を囲み旧交を温め合いました。この夜はマッカーサー元帥の



愛したホテルニューグランドに宿泊し、青春時代にタイムスリップして深夜までの酒宴を敢行いたしました。

出席者は主賓の恩師藤沢徹先生をはじめ、伊東哲夫、榎本晃一、加藤好武、北村忠夫、木村哲夫、河野郷、柴田武志、清水修、染谷省三、高梨俊治、田中秀幸、渡嘉敷義浩、箱山清夫、樋浦康一郎、橋本俊一、大滝薫の17名と同伴令夫人6名を加えて23名でした。幹事は総務担当の柴田武志、東京会場担当の染谷省三、横浜会場担当の榎本晃一、副幹事長の樋浦康一郎、幹事長の大滝薫と役割分担して臨みました。次年度は土佐の高知を会場として幹事役二回目の高梨俊治氏にお骨折り戴き、開催する予定です。（大滝記）

9

農芸化学科 19 回生クラス会報告

クラス会

農芸化学科 19 回生クラス会を 2015 年 11 月 6～7 日に行った＝幹事は関口氏 & 桑川氏＝。今回は宇大校内の見学がメインテーマ。准教授金野先生に宇大の現状を講義して戴き学内をそぞろ歩きました。

講堂、フランス式庭園、旧農芸化学館、生化学研究室（旧 3 講座）等をじっくり見学。真剣な眼差しは科学者そのもので全員が懐かしがっていた。現役の時より真面目になった熟年学生も数名おり大変有意義だった。

その後、益子へ移動し懇親会を行う。

冒頭に 8 月他界した井上氏等に黙祷を捧げ、懇親会が始まる。個人個人の近況報告をメインに大盛り上がりだった。特筆すべきは 1 講座斎藤光氏のエッセイ出版の話。16 年 1 月発売の本について詳しく説明があり、全員ビックリポンだった。タイトルは「青春している MR」（著者：斎藤光星）。小話 37 編からなるエッセイ集で文芸社から出版。我がクラスの直木賞（？）とも言える作品。彼の話では現在小説を執筆中で 2 年後に出版とのことと期待度は 2 万%だ。いよいよ農化科から直木賞作家が誕生か……。

皆さんも是非お読み下さるようお願いする次第です。熟年に勇気や活力を与えてくれる作品で、実に良く書けているエッセイ集です。

柴田氏のトランペット演奏（3 曲）もあり、大いに彩りを添えた。

二次会の Free Talking は果てしなく続き、大いに旧交を温めることが出来た。

翌日は陶芸美術館、工房見学後お開きとなった。

例年の如く写真を撮りまくり、アルバムを編集してくれた中島氏には感謝申し上げる次第です。カメラマンお疲れ様でございました。



今年は池田氏幹事で茨城開催です。全員参加で楽しみましょう。

参加者：阿部・飯塚・池田・小川・小田部・桑川・児玉・斎藤・柴田昌男・柴田公子（＝川上）・渋谷・関口・高崎・中島・福島・三好・山路・山田

誠に残念ですが奈良唯夫氏（豊川）が 5 月中旬御逝去なされました。

10

旭日重光章受賞を祝い 畜 11 回（昭和 38 年卒）

クラス会

吉田公一君は、農林水産副大臣等を歴任し平成 25 年国会議員を引退、平成 28 年春の叙勲で旭日重光章を受賞された。これを機に宇都宮市ホテルニューイタヤにおいて祝賀会（同級生の）を催した所、県外から岩下君（茨城）渋谷川君（姫路）片寄君（小田原）本田君（福島）浦辺君（東京）がかけつけ本県の高山、野口、鈴木、渡辺の 4 名と受賞者の田君をまじえ 10 名が親しく受賞を喜び合った。

これまでも吉田君の当選祝い、就任祝い、国会見学や及ばずながらの選挙運動などと、わいわい同級生も身近に政治を感じたものでした。

今回都合で出席できなかった、三浦君、岡本君、星君、飯田君、板橋君、荻津君、有賀君、横塚君、体調不良で出席できなかった松沼君、沼尾君、小池君、入院中の川俣君等も次回は顔を見られることを願って、浦辺君に東京での開催をお願いし散会した。



11

畜産学科第 4 回（昭和 31 年 3 月）卒業 「畜四会」東京浅草に集う

クラス会

昨年鬼怒川温泉でのクラス会開催時に、来年もやろうかという話になり、「千葉君に音頭を取って」と、話が弾みました。

年が明けると直ぐに、「約束をしたから東京でクラス会をやろう。はとバスを利用した、靖国神社参拝と東京スカイツリーのコースでどうか」と、連絡があり、宿やバスの手配をしてくれました。

平成 28 年 5 月 24 日午後 1 時、東京駅南口集合。はとバスは定刻に出発し、日比谷通り～法務省赤レンガ棟～国会議事堂前を通過し、靖国神社を参拝。神田古書店街～神田須田町を抜けて東京スカイツリーへ。

東京スカイツリーの展望回廊からの眺望は素晴らしく、薄曇りの天候でしたが、東は江戸川、西は新宿副都心の高

層ビル、南は東京ゲートブリッジ、北は北千住あたりまで眺めることが出来ました。ガラス床からの眼下の家並みや道路を走る車等々、まさにジオラマの世界でした。

宴会は佐藤君の乾杯で始まり、「助六の宿・貞千代」の宿主望月友彦氏の歓迎の挨拶と、江戸小咄やなぞかけ遊びの語らいに抱腹絶倒・悶絶。

宴席では姿川寮や自律寮、今だから言える家賃を払えず下宿からの夜逃げの話や、淡い恋心の話もあって、思い出話は尽きず、夜の更けるのを忘れました。

5月25日は、浅草寺～浅草神社（三社様）～仲見世通り散策～巣鴨刺抜き地藏～都電荒川線（チンチン電車）に乗って～雑司が谷鬼子母神堂と年齢相応の寺社巡りで、池袋駅へ出て流れ解散。

2日間で2万5千歩のウォーキングでした。次回もまた元気で逢おうと、再会を約しました。

写真は、前列向かって右より、佐藤邦郎君、高橋祐美君、助六の宿貞千代宿主望月友彦氏、齋藤馨、阿部博君。後列向かって右より、大友鴻君、平田修一君、千葉よ志み夫人、佐藤豊子夫人、千葉喜美夫人。（齋藤馨 記）



12 農学部第20回生クラス会報告 クラス会

農学科第20回生（入学は昭和43年4月）は昨年の伊豆河津町のクラス会に引き続き、本年は7月3～4日に群馬県伊香保温泉「松本楼」で開催しました。北は北海道から南は高知県より総勢26名の参加を得てのクラス会となりました。

我々のクラス会はこれまでは2、3年に一度程度の開催でしたが、歳も70歳近くとなり、より多くの交流を深めたいという会員の希望のもとに毎年の開催となりました。

群馬の名湯、伊香保の湯にゆっくりと浸かった後、午後6時に開宴となりました。宴会は乾杯の発声で始まり、その後幹事の開会挨拶、報告となりました。今回のクラス会の通知のやり取りで、大切な仲間が亡くなっていたことが分かり、参加者に報告しました。そんな訳で少々暗い辛い雰囲気でのスタートとなりましたが、仲間の近況報告に助けられ除々に盛り上がり、加えてギター演奏、ハーモニカと笛の夫婦合奏、「スポーツ吹き矢」の講義など、退職後の各自の活躍に接し、みんな良き刺激と思い出を得られたようです。「幹事部屋」での二次会も、ほとんどのメンバーが参加し、真夜中まで盛り上がりました。

当日の記念写真を見ていただければと解りますが、若き(?)奥様が沢山に参加してくれております。そうなんです。

60歳を過ぎた頃より「親睦は奥様と一緒に」という家族ぐるみのクラス会に発展しているのです。ですから夫婦で出席することは勿論、都合のつく限り部屋も男性部屋と女性部屋に別れ、それぞれ交流を深めたところです。

今回、幹事を仰せつかりとても嬉しかったことがありました。クラス会終了後のお礼の手紙の件です。「写真を見た妻が『楽しそうね。行ってよかったわね。』と言ってくれました。」と書いてありました。幹事冥利につける仲間からの礼状でした。会員みなさん、遠路おつかれさまでした。また会いましょう。

幹事 小島 登 多々木英男 松井 剛



13 農学科第6回生クラス会 クラス会

継続して行われているクラス会も今年で22回、毎年7月はじめに開催している。幹事は北関東3県の持ち廻りだが、今年は茨城県が幹事役、今まで北茨城の五浦温泉や大洗で開催してきたが、今年は筑波山温泉を会場にしたが、遠くは秋田市や春日井市から駆けつけてくれた。

毎年見ている顔で大して変わった様に見えないが、暫らく参加していない人に写真を送ったところ電話があり、何人かの名前と顔が一致しないと言うが、これも齢のせいかな。

今まで古希と傘寿の齢を祝い、記念誌の発行をしてきたが、来年は卒業して60年を迎えるが、栃木県が幹事で盛大に行う予定だ。これから何年続けられるか分からないが、後一回りは出来そうな気がするが、日々目標を持つは元気の元、英気を養って無事次回も顔を見せて欲しい。

幹事 高野 茂



14 農学部林学科第12回 クラス会 (昭和39年3月) 卒業「濁り酒会」

最近首都圏の鉄道網は目覚ましく進化し、横浜は関東の

多くの駅から乗換無しで行くことが出来る時代になりました。

そんなことで、今回は平成 27 年 9 月 29 ～ 30 日、観光客で賑わう横浜中華街のド真ん中「ローズホテル」で開催しました。

29 日、早めに集まった 10 人は中華街の開帝廟や何十本もあるお店だらけの通りをぶらつき、派手気味ながら異国情緒あふれる散策を楽しみました。

夜は予定の 14 名が集まり、重慶飯店の中華料理を食べながら、久しぶりに顔を合わせた悪友と悪友同伴の奥様たちとたっぷり話をして十分な満足感でした。

以前は飲み放題セットが主流でしたが、今は健康第一でほどほどかと思ったら、遠路はるばる重たい「濁り酒」の一升瓶持参の友ありて、結局遅くまでの飲み語りは昔どおりでした。

翌 30 日 12 名がホテルから歩き始め、これも異国情緒の山手の洋館群や外人墓を訪ね、港の見える丘公園からの展望を楽しんでから山下公園へ下り、太平洋航路で活躍した氷川丸を見学したあと、マリーンシャトルに乗って水上経由で横浜駅東口に向かいました。

ポートサイドでランチしたあと、「次回も元気で会おうね」、と約束して横浜駅で解散しました。

在学中は演習林をはじめ山の中をのし歩いていて、その後も海とは縁遠いのかと思ったら、木材輸入関連などの仕事で横浜には度々来ていたという話しもあって、港町ヨコハマでのクラス会は好評だったようです。

出席者：井波、大崎夫妻、小野夫妻、菊池、齋、菅原、角田、寺内、西村、増子、依田夫妻

幹事 依田 久司



入学式および保護者ガイダンス

平成 28 年度入学式が、4 月 6 日(土)午前 10 時から宇都宮市文化センターで行われ、農学部には、205 名の方々が入学されました。午後 2 時から、大学農学部 3101 教室を開場にして、農学部主催の新入生保護者説明会が行われ、200 人近い保護者が参加されました。

同窓会からは、和賀井会長が出席して、同窓会の概要や実施をしている事業の紹介を行いました。夏秋学部長から同窓会の紹介をされる際、保護者会用のパンフレットの表紙写真について、フランス式庭園の池が卒業生によって造られたという歴史的な話に触れていただくと、保護者も興味深そうに写真を見ていました。



☆☆ 新入生歓迎会の開催 ☆☆

平成 28 年度農学部新入生歓迎会を、4 月 8 日(月)午後 4 時 30 分から、大学会館生協食堂において開催しました。混声合唱団の大学歌斉唱指導に始まり、会長挨拶、同窓会や学生支援制度についての説明のあと、夏秋先生の挨拶をいただき、懇親会を行いました。先輩による歓迎の言葉や、美しい歓迎の歌なども披露されました。参加者は 134 名で、教員、院生、学生評議員の参加も多く、盛会でした。

新入生歓迎会での先輩スピーチ



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。宇都宮大学の良さと私自身の経験談の 2 つをお伝えしたいと思います。

まず宇大の良さをいくつかご紹介します。まず 1 つ目に、学科の人数が多くないので雰囲気がよく、先生との距離が近いことです。どこかで聞いたことあるかもしれませんが、東京の私大などでは先生と話す機会はなく 4 年間すぎるそうです。宇大の農学部では先生と仲良くなって様々なことが相談できます。2 つ目に 24 時間利用できるアグリコモンズがあることです。パソコンが使える自動販売機や加湿器、新聞などもあって快適です。アグリコモンズの他には、図書館も勉強するには良い感じのところですよ。3 つ目は生協で JR の切符が買えることです。ミニストップの上の支援科で学割が発行できます。それを持って生協に行けば、駅で緑の窓口には並ばなくて済みます。帰省や、旅行に行くときに利用してみてください。さらに、宇都宮自体も住みやすく、いいところだと思っています。都会からいらした方には物足りないかもしれませんが、スーパーもコンビニも多くて、不自由はないと思います。カフェも多くあります。探して行ってみてください。

次に私の経験談を紹介します。早速ですが、大学生活において私には後悔していることがあります。それは 1 年生の時のサークル活動を、アルバイトが忙しかったことや、お金がかかることを理由にやめてしまったことです。サークルをやっているのといないのでは、人脈の幅が全然違うと感ずます。たくさんチラシをもらって、友達とスケジュールをたてて、いろんなサークルの歓迎会に行き、他学科の友達を作ったり、情報交換をしたりしながら、自分に合ったサークルを見つけてください。

もう一つ、アドバイスをしたいと思います。私は今就職活動真っ最中です。学生時代に頑張ったことや、印象に残っていて成長できた経験はなにかなど必ず聞かれます。とりあえずいろいろな経験をしたり、新しいことを始めたりしてみてください。

時間割の作り方や、一人暮らしのこと、アルバイトのこと、サークルのこと、いろんな不安や疑問があると思いますが、なんでも聞いてください。皆さんが楽しい大学生活を送れる様にサポートしていきたいと思っています。

(農業経済学科 4 年 秋元麻衣)

卒業生便り

さる2月27日に仙台市で東北地区の峰工会会員（農業環境工学科同窓生）の合同の懇親会を開催しました。未曾有の大震災から5年という節目を控え、県域を超えての交流を目的に集まりました。

後藤教授や、水谷名誉教授をお招きし、宮城県支部を始め東北6県等からお越し頂き、総勢27名の参加となりました。被災地の復興状況等の説明や、他県からの支援活動に従事した方との久しぶりの再会等もあり、大変有意義な会を開催することができました。

また、石田学長から農業環境工学科で教員をされていたこともあり、ビデオメッセージを頂きました。参加されたみなさんは本当に楽しんでいました。

今回、僭越ながら私が東北のみなさんにエールを送りたい、ネットワークづくりを側面から支援したいということで呼びかけさせて頂きましたが関係者の皆様のご尽力もあり開催できたこと、本当に感謝しております。

東北で活躍されている同級生のみなさんには今後とも復興に頑張ってもらいたいです。

文責 大久保尚彦（環H12）



オープンキャンパスについて

宇都宮大学オープンキャンパスが7月18日(月)に開催されました。農学部では、学部・学科の説明、模擬授業、研究室紹介パネルの展示、入学相談などがあり、多数の来場がありました。



受付の様子



模擬授業

農学部 山根健治教授が「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を授与されました

本学農学部の山根健治教授が、独立行政法人日本学術振興会から「平成28年度ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を授与されました。

これは、我が国の将来を担う子どもたちの科学する心を育み知的好奇心の向上に大きく貢献した研究者を讃えるとともに、科学研究費助成事業による研究成果を積極的に社会・国民に発信することを奨励するために、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI(研究成果の社会還元・普及事業)」において継続的にプログラムを実施した研究者を表彰するものです。

山根教授は「現バイオセンターの環境実験棟を活用した地域貢献のために農学部の本条教授らを中心に始まったプログラムです。各プログラムに参画頂きました、本条教授、村井教授、小林教授、夏秋教授、金子教授、飯塚教授、和田教授、房教授、金野准教授、謝助教、鈴木准教授、宮川准教授、研究協力・産学連携課と企画広報課の皆様、加藤徳重様、バイオセンター教員とスタッフの皆様、TAの皆様、地域の参加者の皆様に感謝いたします。今後とも継続しますので、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。」と述べました。



山根健治教授と石田朋靖学長